

## 院長のひとりごと2

### テーマ「消防避難訓練」

2月13日、夜間を想定した消防避難訓練が行われました。職員総勢50名、看護学生（模擬患者として）40名、消防職員10名及び消防車両二台参加という大規模なものでした。昼間と比べ、少ない夜勤者数で、初期消火、40名の患者さんを避難誘導するという過酷な訓練です。文字通り、火事場の馬鹿力を発揮して、皆汗だくになりながら真剣に取り組んでいました。

消防職員に監視されながら行うという緊張する場面ですが、いつもの勤務通りお互いの声かけ、声出しがもっとあればもっとスムーズに行ったかもしれません。初期消火以外は、火事現場からの避難は現場から遠ざける以外は、こうしなければならないという決まりは無く、臨機応変に知恵を出しきってしなければならぬと感じました。特に誰がリーダーシップを発揮するのか日頃からある程度の決めごとをしておかないとならないなど。

最も大事なことは火を出さないことです。入院患者さんや家族の方も安全な入院生活が送れるように協力が必要です。前任の小文字病院時代、患者さんの寝たばこからボヤ騒ぎがあり、肝を冷やしたことがあります。幸い布団が燃えた程度で済みましたが、大惨事になるところでした。

「ひとりの怠慢が全ての苦労を無駄にする」感染対策委員会のスローガンですが、職員も患者さんも一緒に考えなければなりません。

訓練でしたが、一生懸命シートに模擬患者の学生をくるんで、汗だくで反復して移動させる姿は清々しいほどの感動を覚えました。本番があつてはいけません、日頃からの訓練、啓蒙が無ければいざという時に役に立ちません。貴重な体験をさせていただいた遠賀消防の隊員の皆様、ありがとうございました。

平成二十六年二月十三日 藤井茂

第9章

